

天領医療連携だより

Ohmuta Tenryo Hospital 2016.6



呼吸ケア指導士 理学療法士1名 【日本呼吸ケア・リハビリテーション学会】

呼吸障害をもつ人々の継続的ケアをチーム医療の中で実践するべく、呼吸ケアに関する最新の基礎的知識と臨床的技術を取得して、地域において指導的な役割を担っていただける人材を認定し支援していくことを目的としている。対象は医師、歯科医師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、栄養士・管理栄養士、薬剤師、放射線技師、言語聴覚士、臨床工学士、臨床検査技師、介護福祉士、その他の呼吸ケア領域で専門職種として活動できるものとなっている。

心臓リハビリテーション指導士 理学療法士3名 【日本心臓リハビリテーション学会】

心臓リハビリは単に運動療法のみを行ってれば事足りるものではなく、食事療法や禁煙指導を含めた包括的リハビリを目指すべきであり、そのためには、医療専門職間の連携や共同作業（チーム医療）が必要となり、冠危険因子是正による二次予防（再発予防）を目的としている。対象は、医師、看護師、理学療法士、臨床検査技師、管理栄養士、薬剤師、臨床工学技師、臨床心理士、作業療法士、あるいは健康運動指導士のいずれかの資格を有していることとなっている。

医療理念

- 一、患者中心の医療
- 二、医療の質の向上
- 三、地域社会にあった手づくりの医療
- 四、安心と信頼を持たれる病院づくり
- 五、経営の安定と職員満足度の向上

基本方針

- 一、地域の病院、診療所および介護施設と連携し、急性期医療を担当する中核病院として地域医療に貢献する。
- 二、患者さんに安心とくつろぎを与える医療と介護を提供する。
- 三、医療水準向上のため職員の教育および臨床研修を充実する。
- 四、経営基盤を安定させる。

◎そよかぜ食堂

障害者就労支援事業「たんぼぼ」では、障害のある方の働き場として、2007年1月よりそよかぜ弁当、レストラン事業を市内八本町にて開始致しました。「障害のある方がいきいきと働き、地域の中で自分らしく生きる。」を目指し事業を進めてまいりました。このたび、天領病院様より職員食堂経営のお話を頂き、就労の場の広がりになればと考え、4月1日より「そよかぜ食堂」として営業を始めました。「そよかぜ食堂」では、手作りした主菜を中心に日替わりで提供するランチが人気メニューです。特にハンバーグや煮魚はイチ押しです。スタートしたばかりの「そよかぜ食堂」を皆様に愛されるお店になるよう、これからの一層努力し、取り組んでいきたいと思っております。



◎栄養管理室より ～行事食～

栄養管理室では月1～2回程度の行事食を提供しております。

病院の食事にはいろいろな制約もありますが、そんな中でも患者さんたちの入院中の楽しみになれればという思いを込めて献立を考えています。特にデザートは現場の栄養士・調理師がメニューの提案を行うこともあり、試作を重ねて改良しながら完成させており、患者さんに喜んでいただける食事の提供を行っています。今回は5月5日子供の日に提供した行事食を紹介します。

- <常食献立>
- ・ピース御飯
 - ・ハンバーグ
 - ・ブロッコリーミモザ
 - ・マカロニソテー
 - ・こいのぼり牛乳かん



編集後記

梅雨の蒸し暑さで蒸し暑い日が続いていて気分が晴れない日が続いていますが、屋外では紫陽花が今日もきれいに咲いています。紫陽花の花言葉は「辛抱強さ」。雨の多い日が続いていますが、運動不足や生活習慣病を予防的に「辛抱強く」夏に向けて身体を動かしてみたいでしょうか。

【ペンネーム まつばックス】



交通アクセス

- JR鹿児島本線大牟田駅下車・・・徒歩20分
- 西鉄天神大牟田線大牟田駅下車・・・徒歩20分
- 九州自動車道南関ICより自動車で・・・25分
- 西鉄バス大牟田駅前バス停乗車
天領校前下車（行先番号2番）・・・下車徒歩3分
天領町1丁目下車（行先番号4番）・・・下車徒歩0分



診療受付時間

月曜～金曜日／ 8:30～11:30（診療開始 8:45～）
13:00～16:30（診療開始 14:00～）
土曜日／ 8:30～11:00（診療開始 8:45～）

休診日

日曜日、祝祭日、年末年始（12/30～1/3）

面会時間

平日・土日祝祭日 10時～20時まで



当院に対してご希望やご意見がございましたら職員にお気軽にお申し付けください。また、ご意見箱も是非ご利用ください。

一般財団法人 福岡県社会保険医療協会
社会保険 大牟田天領病院

〒836-8566 福岡県大牟田市天領町1丁目100番地
TEL 0944-54-8482 FAX 0944-52-2351
電子メール:somu@omutatenryo-hp.jp ホームページ:http://omutatenryo-hp.jp/

◎整形外科の紹介 | News

当院整形外科には、久保田健治（部長兼副院長）、小田勇一郎（部長）、堀川朝広（部長）、原慎太郎（医員）の4名の、いずれも日本整形外科学会専門医資格を有する医師が在籍しており、日々の診療に携わっております。

ご存知のとおり、整形外科が扱う疾患は多部位、多様にわたっており、さらに、求められる医療技術の進歩はとどまるところを知りません。したがって、4名で全ての領域において一流の高度な診療を行うことは不可能に近いと考えております。

そこで我々は、骨折などの外傷性疾患に対する診療は、整形外科地域医療の本幹として考えておりますが、他領域においては、特に関節疾患（変形性関節症、関節リウマチ、骨壊死、靭帯損傷や膝半月板損傷などの関節外傷など）に重きをおいた診療を行っております。

手術件数を見ますと、昨今の高齢化社会情勢を反映してか、高齢者の関節疾患に対する手術症例数が右肩上がり増加しています。

図1に人工膝関節置換術の最近10年間の年度ごとの手術件数の推移を示します。10年前（平成16年）には28件であったものが、5年後（平成21年）には76件、10年後（平成26年）には129件となっています。さらに内訳を見ますと、人工膝関節部分置換術（単顆置換術：UKA、膝蓋大腿関節置換術：PFA）が増加しております。

また、最近では、変形性膝関節症や大腿骨顆部骨壊死に対して、人工関節を用いない手術として、膝関節周辺骨切り術の手術件数が増加しており、今後さらなる増加が見込まれます。（図2）股関節に関しては、人工股関節置換術の手術件数は10年前に比べ2倍以上に増加しております。（図3）

得意な分野を伸ばし、そうでない分野においては他の医療機関との連携を生かして対処するといったことは、少人数で高度な医療を提供するための一つの方法だと考え、今後も継続して行きたいと思っています。もちろん、そのためには、他の医療機関の多くの先生方のご協力が必要であることは論を待たないと考えておりますので、今日までのご厚情に深く感謝し、今後についてもよろしくご厚情申し上げたいと思います。



久保田 健治



小田 勇一郎



堀川 朝広



原 慎太郎



図1: 人工膝関節置換術手術件数

図2: 膝関節周辺骨切り術手術件数

図3: 人工股関節全置換術手術件数

◎新任医師の紹介 | News



呼吸器科 須加原一昭 (すがはらかずあき)

●専門領域 呼吸器内科一般
●専門医等 日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、インфекションコントロールドクター

平成28年4月より赴任しました。熊本生まれの熊本育ちです。前任地は熊本県八代市で、大牟田地域周辺は初めてとなります。いろいろ至らない点もあり、いろいろご迷惑をお掛けすることもあるかとは思いますが、当院ならびに、地域のために精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願い致します。



呼吸器外科 松石健太郎 (まついけんたろう)

●専門領域 外科、呼吸器外科
●専門医等 日本外科学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会、日本肺癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本臨床外科学会、日本気胸・嚢胞性肺疾患学会

平成28年4月より、こちらでお世話になっている呼吸器外科の松石と申します。前任地は熊本労災病院で一般外科(主に消化器外科)、救急をしていました。私はもともと福岡の八女出身ですが、大牟田は初めてです。まだ来ただけで慣れないことも多く迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、大牟田の患者様のため頑張っていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

◎平成28年度 新入職員採用辞令交付式

4月1日(金) 当院福祉センターにおいて、平成28年度新入職員に採用辞令の交付がありました。定期採用は、医師2名、薬剤師2名、検査技師2名、看護師15名、准看護師4名、介護福祉士5名の計30名です。新たな希望を胸に地域医療に貢献出来るよう日々努力して行きます。



◎福岡県社会保険医療協会「新入職員英彦山 集合研修を引率して」

事務長補佐 小林敬一

4月6日(水) 早朝7時30分に出発。10時30分前には英彦山青年の家到着。11時にはオリエンテーション開始。研修対象者が自己紹介を行った。皆かなり緊張の面持ち。その後施設の広場で記念撮影(写真)、一転して和やかな雰囲気。1日目の講義は田中事務局長の医療協会概要と外部講師による接遇研修。社会人としての責任が自覚できた模様。夜間より強風と強雨。気温も下がりお世辞にも快適とは言えない環境だが、研修生の方々はそれぞれロビーで談笑等、親睦を深める。

7日(木) は早朝より昨夜から続く大風、豪雨で聴講環境としては最悪。会長を始めとする講師の到着も懸念されたが、なんとか全講義を無事修了。各自意見発表で研修の意義とこれからの決意を語る姿が頼もしく感じられた。後日、研修レポートも拝見したが有意義であったことがしっかりと述べられていた。



◎看護部 新人集合研修

看護師長 福島和子

今年度看護部には、24名の明るく元気な新人看護職員(看護師、准看護師、介護福祉士等)の入職がありました。看護部では、新人職員の合同研修の後、部署配属前に集合教育研修を毎年行っています。研修では看護師、介護福祉士としての基礎技術の習得や社会人の心構えについて学びます。今年は、4月11日(月)から4月



15日(金)まで5日間の日程で行いました。実践に近い形での演習に新人さんたちは、とても真剣に取り組んでいました。採血の実施では、お互いの腕を借りて痛みを分かち合い、成功した時は感激の涙を流す姿もありました。また、オムツをお互いに当てて、着け心地を確認しながら、正しい装着方法を学びました。

研修での学びの中で、天領病院の職員としての意識も高まったのではないかと思います。まだ、未熟な彼らですが、今後は経験を通して技術を高め、一人ひとりの患者さんと向き合い、気持ちに寄り添える専門職業人として成長してほしいと考えています。

今年は、人数も多く幅広い配置となっています。院内で名札に若葉マーク∞を付けた新人看護職員を見かけたときは、温かい言葉かけなど応援のエールをよろしくお願いします。

学会発表・講演など

■【学会活動等報告】

◎第20回 福岡県作業療法学会 [平成28年2月13日・14日 筑後広域公園芸術文化交流施設 九州芸文館]

一般演題：口述発表 作業療法士 松葉幸典

「気腫合併肺線維症を有する症例へのADL動作指導の検討 -STEFを用いた酸素飽和度の変化に着目して-」

呼吸器疾患患者のリハビリテーションにおいて酸素化の安定を求めると上肢操作の制限が必要となる。ADLにおいて、実際にどういった動作が低酸素状態を引き起こす要因になっているのかを検討し、症例報告を行った。



◎院外講義 [平成28年4月8日 沖縄リハビリテーション福祉学院]

理学療法士 島袋公史

「理学療法と補装具 -脳卒中下肢装具を中心に-」

理学療法学科 昼間部・夜間部の学生を対象に、脳卒中ガイドラインを中心とした下肢装具使用の意義と当院での装具療法の取り組みについて講義した。また、水硬性プラスチックキャストを使用して実技を行った。



◎リハビリテーション科の認定資格いろいろ

学会や各団体により、様々な認定資格があります。今回は、リハビリテーション領域での認定について紹介いたします。

・糖尿病療養指導士 理学療法士1名
【日本糖尿病療養指導士認定機構】

日本糖尿病療養指導士とは、糖尿病治療にもっとも大切な自己管理(療養)を患者に指導する医療スタッフである。糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識を持ち、医師の指示の下で患者に療養指導を行うことのできる熟練した経験を有し、試験に合格したものである。対象は、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士(2000年度より2004年度までは准看護師、栄養士も対象)となる。

・呼吸療法認定士 理学療法士3名、作業療法士1名
【3学会(以下)合同呼吸療法認定士認定委員会/特定非営利活動法人 日本胸部外科学会/一般社団法人 日本呼吸器学会/公益社団法人 日本麻酔科学会]

3学会合同呼吸療法認定士認定委員会が創設した「3学会合同呼吸療法認定士」認定制度は、臨床工学技士、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士の中で、それぞれの職種において呼吸療法を習熟し、呼吸管理を行う医療チームの構成要員を養成し、かつそのレベルの向上を図ることなどを目的としている。